



開設一周年を迎えて

施設長 山口 一

中里の家だより
第9号

発行年月日
昭和63年6月30日

発行
社会福祉法人
安房広域福祉会

〒294-02
館山市中里288-1
0470(28)2022

「中里の家」が開設されて一年を経過しました。運営も軌道に乗り順調な歩みが続けております。

創設ということで試行錯誤の連続だったような気もしますが、言葉どおり一年間を大過なくすごせたことは、入所生たちの努力と職員諸君の使命感が渾然一体となった成果であろうと思えます。そして忘れてならないことは、周囲の方々の御理解・御協力のお蔭でありまして、感謝の念で一杯であります。

反省することも多々ありましたが、それはこれからの施設運営に充分に生かしていかなければならないと考えております。

「中里の家」ならではの特色ある

運営を図るため、職員諸君と共に一年間を過ごしてきたのでありますが、考えてみますとまだ一年、歴史はこれから作られるわけでありまして、今後は実績に溺れることなく、より良い施設運営に努めていかななくてはならないと胆に銘じております。

本年度も前年に続き、健康・自立・勤労の三点を大きな指導目標として運営する方針であります。入所生の人間性を尊重しながら、充実した毎日が過ごせるように配慮し、社会生活・家庭生活に適應できるよう、指導の徹底に努めていく所存であります。

特に今年からは、入所生の適性・能力に応じた処遇を展開してい

きたいと考えておりますが、困難も予想されます。しかし入所生と職員との一体となった努力、心の通い合いによって解決していくだろうと確信しております。

また、今年は所外活動・クラブ活動をより多く取り入れて、毎日の生活に変化と潤いのある処遇を図りたいと考えております。

なにはともあれ、我が中里ファミリーの生活は今後も長く続くと思いますが、元氣一杯、明るく楽しく過ごしていく所存でありますので、温かく見守り、そして励ましてくださるようお願いいたします。

「中里の家」

開設一周年を迎えて

保護者会会長

小原 一夫

中里の家の職員の皆様、園生や保護者の皆さん、開設一周年おめでとうございます。

親も子も初めての施設生活をどのようにに感じられるものにしたらよ

いか、保護者会はどのように活動したらよいか、全く手さぐりの一年でした。しかし、施設長さんはじめ職員の皆様方のご熱意と温かい御指導、地域の方々の御協力のおかげで、どうやら無事に二年目を迎えることができました。厚く御礼申し上げます。

さて、この一年間の園生の姿を見てみますと、いろいろな面ですばらしい成長をとげたことがよくわかります。例えば、家庭ではつい家族に甘えていて自分ではできなかったことが、ちゃんとできるようになったり、お母さんがいなくては何もしようとしなかったのに、みんなと一緒に行動できるようになったり、数えあげればきりがないほどの効果が表れております。

このように園生たちは、自分自身の生活の場所を得て喜んでいるようです。

ところが私達の地域の中には、まだまだ多くの同じ障害を持つ方々が更生施設への入所を待ち望んでおられます。私は、この方々と一緒に手を携えて生活できる場所を、

一日も早く作ってあげたいと思うのです。

幸いにも、このたび「中里の家」の事業計画の中に、定員増が取り上げられましたことは喜ばしいこととあります。この施設拡充の早期完成について、行政をはじめ関係機関の方々並びに地域社会の方々の御支援・御協力を切にお願い申し上げます。

私たち保護者は、今後園生の幸福のために研さんを深め見聞を広めて、園の方針に沿って協力し、かつ園と家庭との連携を密にしてゆきたいと思っております。

今後なお一層の御支援・御指導御鞭撻の程をお願い致します。

楽しかった行事の数々

香 田 道 丸

四月、五月、そして六月。木々の緑もあざやかさを一層増して、行楽には絶好のシーズンです。中里の家でも色々なところに行っ楽しい思い出を沢山つくって来ました。

四月「飲めや歌えで 大さわぎの城山花見」

四月に入って早々、中里の家は城山へ花見に行きました。とっても急な登り道、ハーハーゼーゼー言いながらやっと登りつめた広場は、桜の花には少し早すぎた様でまだまだ固いつぼみの状態。でもそんなことに中里の仲間は負けません。大さわぎでお城の中を見学したり、ほろ酔い気分でマイク片手に十八番をうなりました。とっても楽しい一日を過ごしました。



「みんなどろんこ潮干狩り」
四月二十八日は保護者参加のバ

ス旅行でした。行き先は富津海岸。みんな久しぶりにお父さんお母さんに会って、やる気は満々。片手に熊手、もう片方には網を持って海に出て行きました。帰ってきたみんなの顔はどろんこにまみれて、とっても満足そう。自慢げに見せる網の中には、少し小ぶりのかわい、あざりが沢山入っていました。

五月「歩いた、遊んだ

ファミリパーク」

徒歩組とバス組にわかれ園を出発。出発する前はみんなちゃんと歩けるかしらと少し心配しましたが、そんな心配もなんのその、徒歩組も案外早く着きました。馬車に乗ったり、オートテニス・ミニゴルフ・釣りで遊んだり、花摘みをしたり……。もっぱら食べるだけの人も中にはいましたね。好天にも恵まれ、ゆっくりと遊んだ一日でした。

六月「すべった、転んだ

砂山遠足」

六月十四日は砂山に遠足でした。十台用意したスノーボードで、急斜面をすべるスリルはまた

格別です。もっとも体重の関係か、ボードが進まない人も中にはいたようです。ただでさえ歩きにくい砂の上、強い陽射しの急斜面を上ったり下ったり連続で、帰る頃には園生も職員もみんなクタクタでした。

のどがとってもカラカラで、おやつに出た冷たいジュースを一気に飲みほしました。

今後の

行事予定について

月	行事内容
七月	海水浴
八月	納涼会・家庭実習
九月	八幡祭礼見物
十月	運動会・家庭実習
十一月	一泊旅行・収穫祭
	家庭実習
十二月	餅つき大会・家庭実習
一月	家庭実習・成人式
	新年会
二月	家庭実習
	ボーリング大会
三月	苺狩り・家庭実習

昭和63年度 居室割について

棟	A	担当職員	内田法和・香田道丸・岡田義之・井上一範 加藤祥子・山口時代
		男子	なのはな
	きく		中野芳照・宇山洋一
	ひまわり		山口智章・斉野尚規・菊池伸幸・石井和彦
	女子	すいせん	北田正明・三平常明・小原睦司・佐久間 晃
		ゆり	森井庸江・網代美恵子
		はまゆう	小谷千恵子・小谷利枝子・小谷まゆみ
すみれ		山岡久美子・加藤春枝・吉村晶子	



棟	B	担当職員	鎌田善一・渡辺和弘・能重 学 田村信子・加藤まゆみ・鎌田治実・戸倉悦子	
		男子	さつき	鈴木正則・平野高雄・渡辺一之・植村 修
			ふじ	茅野正一・豊見山一志
			つばき	真田和文・永井貴之・川崎康夫・青木輝夫
	女子	あじさい	宇山幸雄・鈴木重行・堀江 進・高野 昇	
		ばら	笹生清美・高梨京子	
		うめ	池田悦子・三幣麻由子・山崎三喜江・丸 真理子	
		もも	松浦路子・新藤恵子・遠藤愛子・長谷川弘美	
		さくら	坂本和代・富田智子・真田幸子・里見あき子	



昭和63年度 作業部編成について

作 陶 部	担当：鎌田善一・山口時代
	○宇山幸雄・渡辺一之・三上利夫・石井和彦・斉野尚規・植村 修 松浦路子・新藤恵子・網代美恵子・小谷千恵子・山岡久美子・森井庸江
木 工 部	担当：井上一範・鎌田治実
	○三平常明・加藤春治・北田正明・小原睦司・真田和文・高野 昇 平野高雄・堀江 進
園 芸 部	担当：岡田義之・戸倉悦子
	○内木栄一・菊池伸幸・白石和幸・宇山洋一・池田悦子・加藤春枝 山崎三喜江・小谷まゆみ・三幣麻由子
縫 製 部	担当：加藤まゆみ
	○丸 真理子・坂本和代・笹生清美・真田幸子・高梨京子・富田智子 遠藤愛子・吉村晶子・長谷川弘美
農 耕 部	担当：香田道丸・渡辺和弘・能重 学
	○鈴木正則・川崎康夫・茅野正一・佐久間 晃・鈴木重行・中野芳照 山口智章・青木輝夫・永井貴之・豊見山一志・里見あき子・小谷利枝子

(○印は、各班班長)

今年度から、地元の方の御好意により畑を借り受けて、新しく農耕部も発足しました。各作業部の活動状況については、追ってお伝えしていく予定です。御期待ください。

— 新任紹介 —

▼ 事務 〓 鈴木 晃

鴨川市曾呂。時々タヌキに出会うような山奥から通っています。高校時代は甲子園目指して青春していました。今はバットをポールペンに持ち替えて、毎日出会う新しい仕事にどきまぎしつゝ、緊張の二ヶ月が過ぎました。職場の温かい雰囲気恵まれ、幸せを感じています。これからまだまだ勉強し、中里の家の一職員として自覚と責任を持って頑張っていきたいと思ひますので、皆様の温かい御指導をよろしく願ひします。

▼ 指導員 〓 鎌田 治実

梅雨の晴れ間に、紫陽花の花がひととき美しく映える季節となりました。山の緑もすがすがしく、初夏を漂わしています。

中里の家の緑も日毎に濃くなっています。私も若葉にたとえてよいのでしょうか。四月から中里の家で社会人一年生をスタートさせ少しずつですが先輩の職員に御迷

惑をかけながらも仕事に慣れ、早くも六月を迎えることができました。若葉も中里色に色づいてきたようです。

毎日、園生の人なつくくあどけない顔を見ながら、設備の整った環境の中で勤務できたことをうれしく思っています。また、大切な子供達を預かっているという職務の重大さを知りました。

山もますます緑が盛んで、若葉も大きく太陽の光をいっぱいを受けて成長していくでしょう。私も山の緑に負けないよう幹を大きな葉でうめるように、一生懸命に努力していくつもりです。今後共よろしく願ひいたします。

▼ 指導員 〓 能重 学

早いもので、社会人となってから二ヶ月が経ちました。今では仕事の流れも覚え、とても充実した日々を過ごしています。

ところで私、新人の能重といいます。今回は簡単に自己紹介をさせていただきます。昭和四五年二月二六日生まれ十八歳です。毎日岩井から約二八キロの道のりを

新車アコードで通勤しています。所要時間約四五分、但しスピード違反の連続ですけどね……

ところで、農耕部期待の新人・能重は、一生懸命園生の為に働かせていただこうと思ひます。

最後に、沢山の作物の収穫を願ひ、自己紹介を終わりたいと思ひます。

皆様御存知の事と思ひますが、去る六月二十三日未明、指導員・安田ひろみが交通事故の為逝去しました。

今年四月に社会人一年生としてのスタートを切ったばかりで、ようやく仕事にも慣れこれからという時だっただけに残念でなりません。

園生にとっても、明るくやさしい姉妹のような存在でした。

紙面を借りまして、心より御冥福をお祈りしたいと思ひます。

編集後記



昨年度、園生活の様子をご家庭にお伝えする施設通信として創刊しました「虹」も、第九号になりました。

今年度は、開設一周年を迎えた記念として、装いを新たにお届けいたします。

作業指導面では、地元の方のご協力で畑を借り受けることができ、農耕部が発足しました。旬の野菜が食卓を飾る日も近いことでしょう。作陶をはじめ、木工・縫製・園芸の各部も、それぞれ充実した作業を行なう為に研究を重ねています。

また、様々な行事も予定されており、ご協力の程、よろしく願ひいたします。

尚、「虹」に対するご意見・ご希望等ございましたら、編集委員までお知らせください。